

彙報

真宗総合研究所

◇研究所委員会

三月八日(木) 於 小会議室

昭和五十九年度指定研究研究計画につ
つ

「真宗学事研究」(特定研究)

研究課題||真宗学事資料の研究

(前年度より継続)

「海外仏教研究」(特定研究)

研究課題||海外における仏教研究の文

献・資料に関する研究

(前年度より継続)

「西藏文献研究」(委託研究)

研究課題||大谷大学所蔵の北京版西藏

大藏経及び蔵外文献の文献

研究

「大藏経学術用語研究」(委託研究)

研究課題||浄土教関係典籍における学

術用語の総合的研究

研究所報第9号発行について

一九八四年三月三十一日発行

〈内容目次〉

研究所の役割

研究者 長崎法潤教授

昭和五十九年度一般研究選考結果

歎異抄文献の蒐集と意味

大谷専修学院指導 西田真因氏

Remarks on Recent Studies on the His-
tory of Early Buddhist Sects or Schools

ゲッチンゲン大学教授

ハインツ・ベッヘルト氏

北米における仏教学の方法

小谷信千代助手

昭和五十八年度一般研究研究内容報告

(その二)

「華嚴教学に受容された起信論の思想的研
究」 研究者 鍵主良敬教授

日系アメリカ人の教育意識に関する研究

研究者 田中圭治郎助教授

客員研究員(本学研修員)アレクサンダー・
ノートン氏の紹介

◇真宗学事研究 研究会

十二月十二日(月) 於 会議室

『歎異抄』の文献研究

大谷専修学院指導 西田真因氏

十二月十九日(月) 於 会議室

学寮と外学 研究者 若槻俊秀助教授

三月十四日(水) 於 会議室

テキスト『大谷派学事史』

第四章宗学固定期 第五章宗学新進期に
ついて

研究者 鈴木幹雄助教授

◇海外仏教研究 研究会

十二月六日(火) 於 会議室

アメリカ仏教学の方法

小谷信千代助手

一月二十日(金) 於 会議室

フランスにおける東洋学

——研究教育機関の現状——

フランス国立科学センター研究員

海外仏教研究嘱託研究員 今枝由郎氏

二月二十九日(水) 於 会議室

最近のカトリックの仏教への関心

嘱託研究員 リノ・ペリーニ氏

真宗学会

◇真宗学会例会

十二月七日(水) 午後二時半

於 第一研究室第一分室

大乘の課題 博士三回生 加来 雄之

白道四五寸 特別研修員 藤嶽 明信
◇真宗学会例会

十二月十六日(金)午後四時

於 第一研究室第一分室

書簡「両眼人」の考察―清沢満之・曾我量

深・金子大栄三師の出会い―

博士三回生 井上 円

回心―修・婦― 特別研修員 飯山 等

◇真宗学会例会

一月十七日(火)午後四時

於 第一研究室第一分室

信心の教学 博士三回生 松尾 直哉

仏教学会

◇公開講演会

十二月八日午後四時

於 図書館講堂

講師―大阪大学助教授 荒牧典俊氏

講題―瑜伽行者の修行道体系の展開と転

依思想について

西洋哲学会
倫理学会

◇西洋哲学・倫理学会公開講演会

十二月七日(水)午後二時半より
於 尋源講堂

哲学と言語

神戸大学教授 水野和久氏

出席者―訓覇教授、箕浦教授、鈴木助教

授ほか西井教授を含め教員、学生多数。

宗教学会

◇宗教学会公開講演会

十二月十七日(土)午後一時より

於 尋源講堂

近ごろ思うこと

―東西の靈性交流によせて―

天龍寺僧堂師家

花園大学教授

平田精耕氏

出席者―大屋教授、武田教授、堀尾助教

授、築山助手ほか教員、学生五十余名。

東西交流の対話における具体的な問題を

聞くことが出来、大変有意義な機会であ

った。

教育学会

◇教育学会公開講演会

十二月十五日

於 尋源講堂

講師―奈良女子大学付属小学校副校長
千代 宏氏

講題―「子供が生きる授業」

出席者―大井・大竹両教授、田中助教、

土戸・佐々木両講師他学生約80名。

講演は、先生の長年の教育実践と研究に

もとづき、実際の授業を例にあげながら、

ニューモアを交え生き生きとした講演であっ

た。

社会学会

◇社会学会公開講演会

十二月三日

於 尋源講堂

講師―愛知県立大学教授 四方寿雄氏

講題―現代日本の家族病理

出席者―池田・高橋両教授、志水助教、

千葉助手、学生六十余名。

現代の家族が抱えている病理的問題を、

特に離婚という側面から話された。実証的

な資料に基づいて、地域間の比較や諸外国

との比較を行なわれ、理解しやすく、かつ

興味深いお話であった。

国史学会

◇国史学会大会

昭和五十八年十二月十日(土)

午後一時～四時三十分 於 尋源講堂

〈公開講演〉

一、古代近江における神と仏

本学教授 堅田 修氏

一、中世の概念について

平安博物館館長 角田文衛氏

一、亀虎古墳の位置をめぐって

京都大学教授 岸 俊男氏

今回の大会は平安博物館との共催において開催されたため、開会の辞は平安博物館

助教 龍谷寿氏、開会の辞を本学専任講師

豊島修氏に担当いただいた。

出席 堅田教授、豊島専任講師、木場助手、

院生学部生、OB、平安博物館関係者、一

般聴衆、あわせて百余名。

大会終了後、講演講師を囲む懇談のひと時

をもつなど、初冬の短い午後に充実した時

を過ごした。

日本仏教史学会

◇日下無倫先生三十三回忌記念講演会

十二月二十二日(木) 三時より

於 尋源講堂

出席者一同による勤行の後、龍谷大学学

長・千葉乗隆氏による真宗史研究の歴史に

関する講演を拝聴する。

参加 北西教授、名畑教授、大桑助教、

佐々木(令) 専任講師、上場講師、草野

特別研修員、院生、学生四十名。

◇卒業生歓送会

二月六日(月) 六時より

於 清水順正

参加 北西教授、名畑教授、大桑助教、

佐々木(令) 専任講師、上場講師、草野

特別研修員、院生、学生四十五名。

◇二回生研究旅行

三月一日(水)～五日(日)

唐津・大宰府・長崎方面。

二日行程 唐津城、高德寺、田島神社。

三日行程 名護屋城跡、九州歴史資料館、

観世音寺、都府楼跡、天満宮。

四日行程 長崎市市内。

五日行程 崇徳寺、解散。

参加 佐々木(令) 専任講師、学生二十七

人。

東洋史学会

東洋仏教史学会

◇研究発表会

十二月十六日(金) 午後三時～

於 一〇二教室

歴代三宝紀帝年考

大内文雄 専任講師

白蓮宗に関する研究史の問題点をめぐって

安藤智信 助教

モンゴル治下・全真教の発展——「宗聖宮」

復興をめぐって——

藤島建樹 助教

参加者 野上俊静先生、藤原教授、滋賀教

授、桂華 助手。

東洋史学会と東洋仏教史学会との初の合

同研究発表会であり、院生、学部生の多数

の参加をえて、盛会裡に終る。

国文学会

中国文学会

◇『文芸論叢』第二十二号発行

〔掲載論文目次〕

佐々木竹苞楼苑・上田止々斎書翰

水田 紀久

沙石集卷二の利益譚

片岡 了

『拾遺集』における貫之歌風の継承

中 周子

総集の性質

清水 茂

乗永寺本『苾宣道心発心章』(上)

沙加戸 弘

(A5判、六五頁)

英 文 学 会

◇大谷大学英文学会研究発表

十二月九日(金)午後四時十分より

於 尋源館三一〇二教室

〈題目〉

イエイツの演劇の現代性——ベケットを通して——
三神弘子氏

小説のひとつの読み方——アメリカ小説の
文章に即して—— 広瀬英一氏

出席者||内藤・広瀬両教授、市橋・鈴木
両助教授、櫛原・村瀬両講師、三神特
別研修員、岸教授(独文学)、学生約四
十名。

◇『英文学会会報』第十一号発刊

目次

仮面の考察 内藤 史朗

——ワイルドとイエイツ——

イエイツの演劇の現代性 三神 弘子

——『鷹の井戸』を中心に——

一九八三年度卒業予定者と卒業論文題目

研究室だより

(A5版 二四頁)

独 文 学 会

◇独文学会公開講演会

一月二十八日(土)午後二時半

於 博綜館第二会議室

講師||関西大学教授 芳原政弘氏

講題||「東独の文学事情とその背景」

参加者||岸教授、友田助教授、禿専任講師、
学生多数。

尚、講演後「五右衛門茶屋」に於て、芳
原教授を囲んで懇談会、及び卒業生送別会
を開いた。

文学科研究室

◇『西洋文学研究』第四号発刊

目次

ゲーテ「ファウスト・第二部」

——メフィストの謎かけをめぐる——

岸 繁一

ウォーの『卑しい輩』について

鈴木 繁一

京都の洋学粗描 岩見 至

ロマンス祖語の措定方法について(一)

——基教詞(一〜十)及びその他若干の
語詞に関する具体的例証——

櫛原 孝

(A5版 七四頁)

短期仏教科

◇「仏教研究紀要」第六号発刊

〈目次〉

悠々と深さ 学長 廣瀬 果
研究レポート要旨 主 仏教科 古田 和弘
研究レポート

短期国文科

◇紀要 第六号刊行

昨年の第五号にひき続き、「大谷大学短

期大学部 国文科紀要 第六号」を、三月十日に刊行した。卒業研究の優秀作五編、および卒業生全員の論文要旨を各八百字で掲載、タイプ印刷で充実した紀要となった。

幼児教育科

◇仏教保育総合研修会

十二月二十一日(水) 午前九時三十分
～二十一日(木) 正午 (一泊)

於 東本願寺および大谷婦人会館
主題「仏教・音楽・保育をめぐって」

目的「仏教保育を理念と実践の両側面から研修する。」

参加者「幼児教育科一・二回生全員、関係教職員。」

本学短期大学部長小野蓮明先生の導師によって開会され、真宗大谷派式務部長近松暢誉師による「仏教と儀礼」、南殿幼稚園主任教諭栗津のり子先生による「仏教保育と音楽」、それぞれ講話および実習をしていただき、基調講演として九州大谷短期大学幼児教育科青山政雄先生よりお話をいただいた。その後パネル・ディスカッション、教度にわたるグループ学習、本山参拝見学、全体会等のスケジュールを終え、滞りなく閉会した。

なお、その後まとめとして、研修会担当役員(教員、学生)によって「仏教保育総合研修会報」が出されている。